



湘南西部障害保健福祉圏域相談支援ネットワーク形成等事業

かながわ湘南西障福ナビだより

発行元：社会福祉法人常成福祉会 みなせ相談支援センター

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 26-1

☎ 0463-71-5872 Fax 0463-73-7875 E-mail: soudan@jousei.or.jp

湘南西部圏域 相談支援拡大ネットワーク会議 開催報告

令和7年11月5日（水）に平塚市庁舎において「湘南西部圏域相談支援拡大ネットワーク会議」を開催しました。湘南西部圏域の市町行政、基幹相談支援センター、委託相談支援事業所、主任相談支援専門員の方々にご参加いただき、各地域の相談支援体制の充実と人材育成、事業所間の連携強化を目的とした情報共有や全圏域が掲げる共通目標の検討を行いました。

【情報共有】では、平塚市から「緊急時対応体制強化事業」について説明がありました。地域生活支援拠点を面的に整備し、緊急時に対応した事業所へ人件費等の一部を補助する仕組みで、日頃から関わりのある事業所による支援体制の構築を目指すこととされています。緊急時対応の体制強化にあたっては、事業所間の連携を含めた協議の場を重ねながら基盤を整えていく事を共有いただきました。



続いて、伊勢原市における複数事業所協働体制の実践報告では、相談支援専門員の負担軽減や支援検討のし易さ、人材育成への効果が示されました。協働体制の導入により、経営面と支援の質の両立を図る取り組みとして、今後の実践の広がりが期待されています。最後に秦野市の単独型事業所からは、丁寧な計画相談を重視した運営の実情の他、支援に係る知識や技術、制度関連の情報、他事業所との繋がりを作る事を目的に研修等に参加しながら実践を重ねていることの報告がありました。

【圏域共通目標に係るグループワーク】で示された意見等の概要は次のとおりです。

セルフプランの現状と課題：精神障害のある方や就労系サービスの利用者、児童期を中心にセルフプランが微増傾向にあります。本人の希望に基づくセルフプランは尊重されるべきですが、「のぞまないセルフプランを削減」していく為、計画相談が原則であることを丁寧に伝え、相談支援専門員の役割や強みを地域に広げていく必要性が共有されました。

地域における人材育成の取り組み：連絡会や研修会、グループスーパービジョンや基幹相談支援センターによるスーパーバイズなど、地域では多様なかたちで相談支援専門員の人材育成が行われています。一方で、これらの機会や場を活用する事業所に偏りがあることが課題となっており、事業所全体への働きかけとその工夫が求められています。

グループホームの支援の質の向上に向けた取り組み：グループホーム連絡会との連携や事例検討を通じ、モニタリングに留まらない相談支援専門員の継続的な関わりが、利用者の支援の質の向上につながる事が確認されました。地域全体で情報を共有し、グループホームだけに負担が集中しない支援体制づくりが重要であることを共有しました。

- 本会議において得た各種情報やアイデアについては、圏域市町間の連携による相談支援体制づくりや人材育成に活かすとともに、他圏域や県協議会との共有も視野に入れて活用していきます。相談支援の質の向上と持続可能な地域支援体制の構築に取り組んでいきますので、ご協力をよろしくお願いします。



令和7年11月14日（金）にソーレ平塚に於いて、重症心身障害児者や医療的ケアを必要とする方々を地域全体で支えていくことを目的に、かながわ医療的ケア児支援センター湘南西部ランチとの共催にて、「重心・医療的ケア児者ネットワーク促進連絡会」を開催しました。

連絡会には、福祉・保健・医療・行政等の関係機関、ご家族などさまざまな方々に参加していただき、各種支援の現状や課題を共有しながら相互に理解を深めました。

前半の実践報告では、医療的ケア児等コーディネーターから、児童期および成人期の支援事例が紹介されました。退院後の在宅生活や学校生活、成人期への移行など、人生の節目ごとに必要となる支援は異なり、多職種が連携して関わることの大切さが共有されました。特に、家族の不安に寄り添いながら切れ目なく支援をつないでいく役割として、コーディネーターや相談支援専門員の重要性が強調されました。



後半のグループワークでは、「ライフステージにおけるチームアプローチ」をテーマに意見交換を行いました。参加者からは、学校卒業後の進路や生活の場の選択肢が限られていること、短期入所やレスパイトの受け入れ先が不足していること、地域によって利用できるサービスに差があることなど、現場で感じている課題が多く挙げられました。また、小児期から成人期への移行期において、医療体制や支援の

手厚さが変わることへの不安も共有されました。一方で、顔の見える関係づくりが進むことで、情報共有がしやすくなり、支援の幅が広がっているという前向きな声も多く聞かれました。参加者からは「多職種の話を直接聞けて理解が深まった」「地域で支える意識を改めて感じた」といった感想が寄せられています。

今回の連絡会を通じて、医療的ケア児者とその家族が地域で安心して暮らすためには、専門職だけでなく、地域全体で支え合う仕組みづくりが欠かせないことが再確認されました。今後もネットワークを通じて情報交換と連携を重ね、「住み慣れた地域で、その人らしく暮らせる社会」の実現を目指して取り組んでいきます。



【指定特定相談支援事業所等の一体的運営についての実践報告（研修会）】

- 相談支援の質の向上、事業所経営、セルフプラン削減の取り組みとして、県央・県西圏域と合同で開催します（2月24日）。研修では、厚木市で一体的運営を行う事業所から「協働型を進めた背景や運営までのプロセスと課題」、「実際の運営状況とその効果」について学び、各地域で協働型を進める一助としてこの機会を活用していただきたいと考えています。

【厚生労働省 社会保障審議会 障害者部会】

- 障害福祉計画及び障害児福祉計画に係る基本方針の見直しの検討経過を確認することができます。相談支援に係る内容も含まれていますので、ご確認ください。

URL: https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-hosho_126730.html

【あとがき】

今年も湘南西部圏域及び多くの関係者の方々にご理解とご協力をいただきながら、本事業を進めることができました。感謝致します。2026年も皆さんとの協働を基盤として歩んで参ります。引き続き、本事業へのご協力をよろしくお願い致します。